



右頁／玄関を入り、階段を上がってリビングを見る。リビングの壁にはスリット状の開口部があり、ここを訪れた人と正対する絶妙な位置にある。この壁の裏側にはキッチン&ユーティリティが設けられている。上／リビングの裏側にあるキッチンは3.6mの天井高を持つ明るくて開放的なスペース。実際には「裏側」という言葉のイメージにはまったくあてはまらない。さらに驚くべきは収納の多さ。壁側にある収納の長さはなんと7m。キッチンからダイニングまでつながっている。右下／ダイニングテーブルの上は、メモや小物など、いろいろなものが溜まりやすい場所。これは、技あり！の収納。テーブルの長さに合わせてつくられており、お陰でテーブルの上はいつもすっきり。左下／キッチンの収納は、大きな道具類から小物に至るまで、ものに合わせた形、大きさを収納が整然と並んでいる。これは奥様のリクエストを受けた食器用の引き出し。横に長いので使いやすい。また、全扉のフチは指入れが良いよう、斜めにカットされている。そのため、取っ手はなくて美しくすっきり。細かい配慮が細部に行き届いている。



KITCHEN COMMUNICATION CASE STYLING

H邸 神奈川県・横浜市
企画／建築プロデュース研究所
設計／矢板久明建築設計研究所
撮影／ナカサ&パートナーズ 文／観野由美子

キッチンとリビングをつなぐスリット状開口部
ダイニングとつながるコの字型のセミオープンキッチン

は、物干しなどに利用する家事のための庭が、壁の裏側にはキッチンと洗濯機などがあるユーティリティがある。これらは主婦のワークスペースとして働きやすいよう、一体化されている。とは言ってもキッチンは隠されているが、決して閉ざされてはいない。その解答になったのがキッチンとリビングの間の壁に切りとられた開口部。この人幅ほどの約40cmの窓から実によくフロア全体が見渡せるのである。Hさん夫妻には8歳の長男と6歳の長女がいるが、奥様がキッチンで作業中も、彼らがどこで何をしているのかを確認でき、会話もできる。さらに窓は、玄関・階段・メインフロアという動線の突き当たり。帰宅後、階段を上ってきたご主人とも視線が合う位置である。もちろん、来客時などという異なるケースに対応可能だ。オープンキッチンが良いとされる大きな理由に、作業中も家族と会話ができるという「コミュニケーションの容易さ」がある。ここでは絶妙な位置に開口部を設けることで、キッチンそのものは隠し、オープンキッチンのメリットだけを探り入れた。建築家の矢板久明さんは言う。「家を建てるときは、敷地の条件に住む人の希望をいかにすり合わせ、その中で最良のプランを探し出すことが重要です。Hさん夫妻の希望には、「駐車場から直接、室内に入りたい」「木を使って欲しい」「キッチンを隠して欲しい」などがありました。そこで多くのプランを検討したうえで、地下5メートルの巨大な穴を掘る決断をしました。その結果、各空間が理想的に配置でき、門から玄関入って階段を上すると、その先にリビングがあつて、キ

なだらかな丘陵地にある閑静な住宅地。擁壁の上に建ち並ぶ家々……。Hさんご夫妻がその地に家を建てたのは昨年のこと。周囲では地上2階建てを建てるケースが多いが、この家は地下を掘り、道路に面した地下2階に駐車場を、地下1階に玄関、和室、寢室、バスルームを設けた。メインフロアは1階で、リビング、ダイニング、キッチン、子ども部屋などがある。1階と言っても実際には平地という地上3階の高さ。そこに高台という立地条件も加わり、メインフロアの北側には街を見下ろす素晴らしい眺望が広がっている。また南側には庭を配置。通りから家の周囲に沿ってつくられた階段を上ると、この庭に出る構成である。その庭を囲む塀は7字に折れ、そのまま室内に入り込み、キッチンとリビングを隔てる壁となっている。この塀から壁へと続くラインが、家の表と裏のスペースを分けているのだ。塀の裏側に

キッチンから奥様が「お帰りなさい」と声を掛けられるようなしつらえとすることができました。やはり、家というのはそれぞれの部屋、場所が機能を発揮し、かつすべてが関係性を持ってつながっているべきです。この家の場合、リビングの裏にキッチン、ユーティリティから物干し場まで連続した主婦の働くゾーンを持つてきましたが、ここが決まることで家の骨格も必然的に決まりました。住宅が成立するためには、主婦が活動をする場所はとて重要

です。そこを使う時間の長さからしても、むしろ居間などの目立つ場所よりも重要かもしれません。それがはっきり確立されてこそ、初めて家が生きてくるのですよ」

家の中でご主人が一番好きな場所はダイニングテーブルの端っこの席。実は、そこはキッチンで作業をする奥様と一番会話がしやすい位置なのだ。そんな家族の習慣が自然にできる家こそが、家族にとって住みやすい家だと言えるかもしれない。

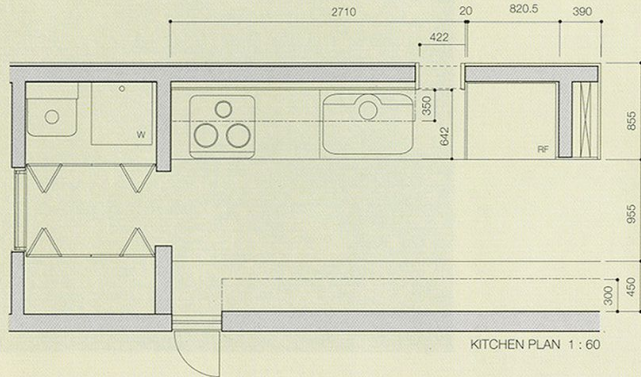


ダイニングからキッチンとリビングを見る。長男の背後にある壁の左側がキッチン。右側がリビング。さらにその突き当たりには庭が見える。ご主人が家の中で最も長く過ごす場所は、テーブルの手前左側の席。ここはキッチンに立つ奥様と一番話ができる位置である

DATA

敷地面積 / 254.43㎡ 建築面積 / 98.69㎡
 床面積 / 地下2階61.35㎡ 地下1階64.38㎡
 1階83.25㎡ (うち厨房面積8.37㎡) 合計208.98㎡
 家族構成 / ご主人(40歳) 奥様(38) 長男(10) 長女(8)

KITCHEN PLAN



- ① DECK TERRACE
- ② TOILET
- ③ PLAY ROOM
- ④ CHILD ROOM
- ⑤ DINING
- ⑥ LIVING
- ⑦ KITCHEN
- ⑧ UTILITY
- ⑨ BACK YARD
- ⑩ CLOSET

